明日を拓く

学　校　報
令和元年１２月２５日
No.４７
美郷町立美郷中学校

■平成から令和に改元された今年を記憶に刻む

筆頭にあげたいのは、過去に例を見ない多くの部活動の団体と個人が東北大会で活躍したことです。中でも男子バスケットボール部は、全国大会予選を勝ち上がり、ベスト16に輝く大健闘でした。

また、「走る美郷」は今年も健在で、創立以来の８年連続全県駅伝大会男女アベック出場は、校内のタイムトライアルや郡市陸上競技大会から「共に走る美郷」を合い言葉に努力した成果であり、新人駅伝チームが立派に襷を引き継ぎました。

文化面でも豊かな感性が発揮されました。とりわけ、一心祭での全校合唱「大いなる秋田」とアンコールの「讃歌」には、会場が感動に包まれたと大好評をいただきました。そして、吹奏楽部のマーチングが、東北大会で見事金賞に輝き、東北トップレベルの実力を示しました。

栄叶学年のリーダーシップが、文武両面での充実した結果を導きました。

２年目のタイ交流も、生徒主体の歓迎会や積極的に関わる授業交流など、素晴らしい成果が得られました。タイの皆さんとのコミュニケーションを通じて、自分や地域を語ることの大切さや難しさを実感しました。それでも、全校生徒による校歌斉唱と「讃歌」のエールは、タイの皆さんの心に響いたようで、涙がこみ上げたと感想を教えてくれました。心には心が響くのですね。

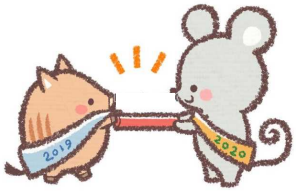
■己亥(つちのとい)から庚子(かのえね)へ♡節目を大切に

古来、人々が節目というものを大切にしてきたことは、時節を呼び名で区別したり、その年を一字で表そうとしたりしていることに現れています。

折々の節目に、新たな心境で臨みたいと願うことは大切なことです。必ずしも計画どおりにできなくても、「今度こそ」と意を決することに大きな意味があります。

年末年始、学期や長期休業の終始、週の終始、毎日の起床就寝、新しいノート等、折々に「今日(こそ)は…」「次(こそ)は…、」と節目に意味づけることは成長の足がかりと考えます。

さて、来たる令和２年、西暦2020年は東京オリンピック・パラリンピックの年として忘れられない年になるでしょう。和暦十干十二支では庚子(かのえね)と称されます。



「庚」は、結実の後に転身することを意味するようで、「子」は、土中で発芽したまさにその瞬間を表し、生命のスタートを意味するようです。

そして、「庚子」は、冷静なひらめきと賢い行動で転身し、新しく始めることがとてもうまくいくことを意味しているそうです。(諸説あり)

平成31年と令和元年、大変お世話になりました。新年もよろしくお願い申し上げます。皆様が、心寧(やす)らかに佳いお年を迎えられることを衷心よりお祈り申し上げます。